

<b>学校の概要</b>		学校名	茅野市	立 永明中	学校	学校長	矢崎 知広	児童生徒数	351 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	永中コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員 民生児童委員 学校評議員 人権擁護委員 同窓会役員 元教育委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれ的人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)	6	回	今年度開催日(予定)	4月27日 6月9日 7月8日 10月7日 12月19日 3月3日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		同窓会顧問		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標		自らの生活を 誠実に たくましく生きる								
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律した生徒 ～自ら課題や挑戦することがらを見出して、解決の方法を考え、判断し行動を起こすことができる～</li> <li>・地域の人やもの、技等との触れ合いやさまざまな体験を通して、より深く学び、地域の魅力を実感することのできる生徒</li> </ul>								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	40 人	参加者延べ人数	60 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							(昨年度の写真)		
		1学年永明寺山整備作業(10/28)		家庭科ミシン実習ボランティア(7月)		企業説明会ブース展(12/2予定)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>										
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>家庭科におけるミシン実習(写真中)において、地域ボランティア6名の方に指導補助に入っていただいた。家庭科担当職員から要望があったため、運営委員会において話題にしたところ、地域講師の方を紹介していただき1学年3学級(各2時間ずつ)でご指導いただいた。実習中、生徒はうまくいかない場面ですぐに地域講師の方にアドバイスをしてもらうことができ、技能を高めることができた。家庭科担当職員は、「複数の地域講師のお陰で全体指導も個別支援も効率的に行うことができ、安全面でも安心できた」と語っている。また、地域指導者の皆さんは、「先生方の役に立ててよかった」「普段はあまり機会がないが、中学生と交流することができて新鮮だった」と感想をいただいた。</p>										
<b>育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題</b>										
<b>(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事やPTA活動にコミュニティスクール運営委員会の方にも参加を呼びかけ、学校の様子を知ってもらうように努めている。</li> <li>・教科指導においてさらに地域資源の活用(地域人材や地域財産から学ぶ機会)を図りたいと考えているが、コロナ禍において対応が難しく、感染レベルを見ながら再開してきた。</li> <li>・地域と学校、保護者と学校の連携は取りやすいが、地域と保護者が連携できる機会を探っていく必要がある。</li> <li>・コロナの状況を踏まえ、コミュニティスクールの委員に授業を公開し、参観していただいた。課題を共有していく上で大切な参観となった。</li> </ul>										